



# クロティの秘密の日記

マキサク作 宮木陽子訳 くもん出版

「奴隷は、読み書きを習ってはいけない。奴隷に、読み書きを教えるもいけない」こんな法律があつた一八五九年のアメリカ南部。奴隷の少女クロティは、勉強中のぼつちやまのそばでひそかに読み書きを覚え、拾った紙に日記をつけはじめました。好奇心おうせいなクロティは、クズかこの新聞などからもどんどん知識を吸収していきます。

まだ知らぬ「自由」に思いをはせる中、逃亡奴隷を手助けする組織があることを知ったクロティは、奴隷制度撤廃のため、ある決断をします。

